



戦後の終焉

令和6年10月28日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

政治の退廃は、政治の本懐を失い、大衆迎合の遊びになったことである。これは国家がその独立において正しい為政とともに国家運営を行う本来の現実から、明らかに乖離しているのである。

これらへの考察は、政治の腐敗にメスを入れることができなかつたことであり、世界の趨勢である新世界秩序という現実の波に抗することはもはやできない。

これは政治の本来の使命、国民の生活と国家の維持運営という現実を放棄したことにおいて、それが終わったのである。

これらはすべての政治家が理解できることである。国民に真実を伝えることはできない、その体質は、結果として今回の衆院選の結果を与えたのである。

また大衆迎合政治への転換は、メディアにおける世論操作なのであり、現実を理解する政治家は今後の未来を予測すべきである。

これら最終的な判断は、CIAにおける国家操作と運営への収束であると考えべきである。その知性に対峙できる日本の政治家は存在しないのである。

これらは彼らの実験場であるという認識は必ず正しい。もはや国家の独立は存在しないと考えるべきである。

これが戦後政治の終焉であることは明らかに皮肉である。

唯一政治の使命は、国民と国家への責任であるならば、それを放棄した政治姿勢が当然の結語を与えたと理解すべきである。

未来の子供達への責任という言葉を理解できる政治家がどれくらいいるだろうか。その現実が今日の日本の現実なのである。